

Rsyncリモートスケジュールバックアップモジュール使用方法

Rsyncリモートスケジュールバックアップモジュールを使って、別のNAS/サーバーからリモートで共有フォルダーをバックアップできます。

対象製品

N-RAID 5500Kシリーズ/Thecus NAS(ヤノモデル) (v5.xx.xx)

インストールするモジュールと製品の組み合わせについて

モジュールをインストールする製品のファームウェアや、バックアップ側の製品によってモジュールが異なります。

以下をご確認のうえ、適切なモジュールをインストールしてください。

バックアップ元		バックアップ先	
製品シリーズ (ファームウェア)	インストールするモジュール	製品シリーズ (ファームウェア)	インストールするモジュール
N-RAID 5500Kシリーズ Thecus NAS(ヤノモデル) (v5.xx.xx)	Rsyncd_Remote_1.00.00	N-RAID 5500Kシリーズ Thecus NAS(ヤノモデル) (v5.xx.xx)	Rsync_Backup_R_1.00.01
Thecus NAS(ヤノモデル) (v3.05.02.4)	なし		
N-RAID 4000Tシリーズ (1.0U)			
N-RAID 4000Zシリーズ (2.0V)			

※上記以外の組み合わせについては、サポートいたしかねます。

インストールする前にお読みください

- バックアップ先の空き容量は、バックアップするデータより大きい必要があります。
- バックアップ元の外部NAS/サーバーは、Rsyncターゲットの機能を搭載している必要があります。
- バックアップ先へACL情報を反映するためには、バックアップ元と同じユーザーグループ情報(ユーザーID含む)を事前に登録してください。
※N-RAID 4000T/4000Zシリーズからは、ACL情報をバックアップできません。
- タスクを作成する時に「ACL情報をバックアップする」にチェックを入れない場合、バックアップ先の共有フォルダーのACL情報が反映されません。
- 問題が発生した時にバックアップのログ(記録)をすぐに確認できるよう、ログ保存用フォルダーの作成を推奨します。
(例:admin画面メニュー>ストレージ>共有フォルダ>追加ボタン>「Log」という名前の共有フォルダーを新規作成する。)

バックアップ元 NAS / サーバーの設定

Rsyncスケジュールバックアップの設定は、「バックアップ元 NAS / サーバー」「バックアップ先NAS」それぞれに行います。まずは「バックアップ元NAS / サーバー」から設定します。

※バックアップ元のNASによって手順が異なります。

<ul style="list-style-type: none"> • N-RAID 5500Kシリーズ • Thecus NAS (ヤノモデル) [ファームウェアVer.5.xx.xx] 	以下へお進みください
<ul style="list-style-type: none"> • Thecus NAS (ヤノモデル) [ファームウェアVer.3.05.02.4] 	P4へお進みください
<ul style="list-style-type: none"> • N-RAID 4000Tシリーズ • N-RAID 4000Zシリーズ 	P5へお進みください



《N-RAID 5500Kシリーズ / Thecus NAS (ヤノモデル) [ファームウェアVer.5.xx.xx] の場合》

Step1 Rsyncターゲットサーバーの設定をする

ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. パスワードを入力してadmin画面にログインします。

※ ユーザー名 / パスワードは半角英数で入力してください。
 ※ パスワードの初期値は「admin」です。

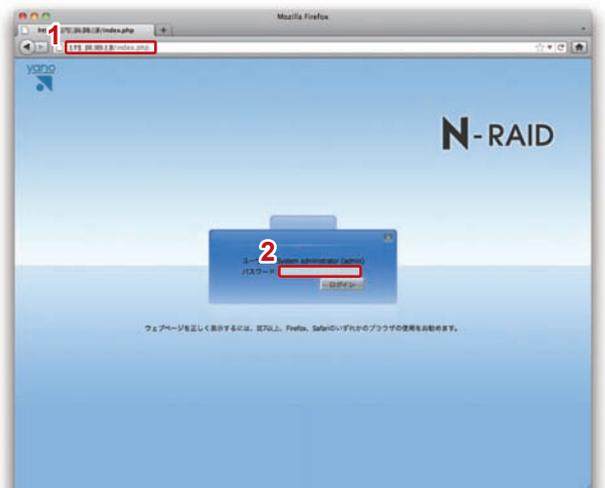
ホーム

3. 「バックアップ」から「Rsyncターゲットサーバー」をクリックします。

ホーム > バックアップ > Rsync ターゲットサーバー

4. 【Rsync設定】項目にある「Rsyncターゲットサーバー」の有効を選択します。
5. バックアップ専用の「ユーザー名」を入力します。
6. バックアップ専用の「パスワード」を入力します。
 ※ お客様がログインするためのユーザー名 / パスワードと違っていても構いません。
 ※ ユーザー名 / パスワードは半角英数で入力してください。
7. 「適用」ボタンをクリックします。

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのもので。



Step2 モジュールを確認する

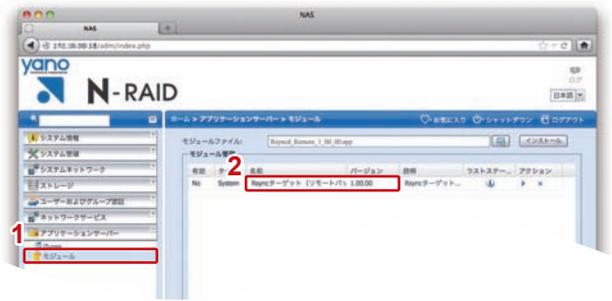
ホーム

1. 「アプリケーションサーバー」から「モジュール」をクリックします。



ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

2. 右側の【モジュール管理】に、「Rsyncターゲット(リモートバックアップ)」のバージョン「1.00.00」が表示されているかを確認します。表示されている場合は「Step5:モジュールを有効化する」へ、表示されていない場合は、「Step3:モジュールをダウンロードする」へお進みください。



Step3 モジュールを入手する

製品添付のCD>「Module」>「Rsync_Remote_Backup_1.00.01」フォルダーの中に「Rsyncd_Remote_1.00.00.app」が入っている事を確認します。もしくは、弊社Webサイトよりダウンロードしてください。

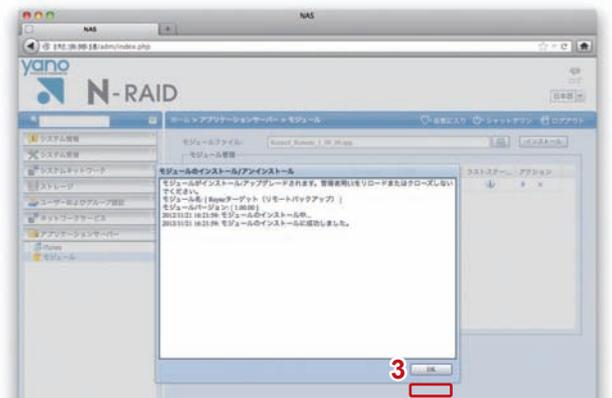
▶ http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/nas_rsync_remote_schedule_backup_100.html

※ ダウンロード方法の詳細は弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

Step4 モジュールをインストールする

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

1.  ボタンをクリックし、モジュールファイル (Rsyncd_Remote_1.00.00.app) を選択します。
2. 「インストール」ボタンをクリックします。確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。
3. インストールが開始されます。成功メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



Step5 モジュールを有効化する

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

1. 右側の【モジュール管理】の中に表示されている「Rsyncターゲット(リモートバックアップ)」のアクションボタン「▶」をクリックします。確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。



《Thecus NAS(ヤノモデル)[ファームウェアVer.3.05.02.4]の場合》

Step1 Rsyncターゲットサーバーの設定をする

ログイン

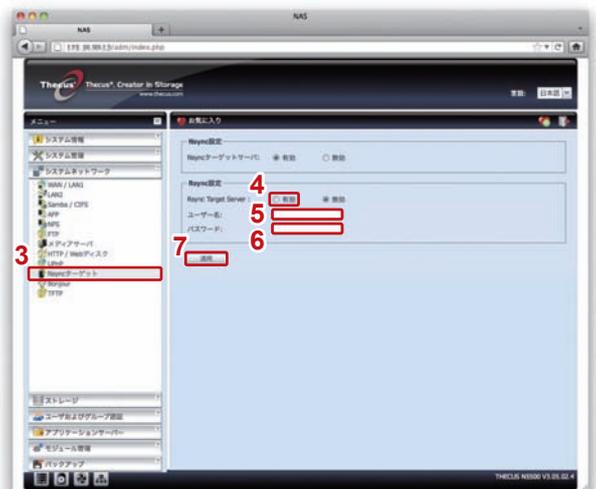
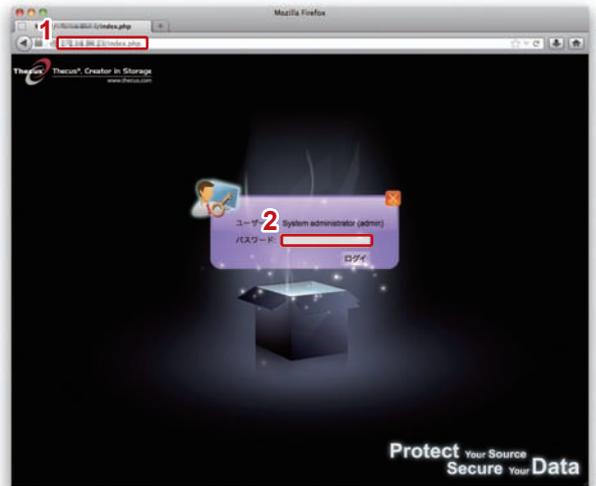
1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
 2. パスワードを入力してadmin画面にログインします。
- ※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。
※ パスワードの初期値は「admin」です。

ホーム

3. 「システムネットワーク」から「Nsyncターゲット」をクリックします。

ホーム>バックアップ>Rsync ターゲットサーバー

4. 【Rsync設定】項目にある「Rsync Target Server」の有効を選択します。
 5. バックアップ専用の「ユーザー名」を入力します。
 6. バックアップ専用の「パスワード」を入力します。
- ※ お客様がログインするためのユーザー名/パスワードと違っていても構いません。
※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。
7. 「適用」ボタンをクリックします。



《N-RAID4000T/4000Zシリーズの場合》

Step1 バックアップ設定をする

ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. ユーザー名とパスワードを入力してYFS Controller Proにログインします。

※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。
※ ユーザー名は「nasroot」、パスワードの初期値が「00000000」です。

メニュー

3. 「ストレージ設定」(4000Zシリーズは「共有設定」)から「バックアップ設定」をクリックします。

メニュー>ストレージ設定>バックアップ設定

4. 【バックアップ設定】項目にある「サーバ」を選択します。
5. ステータスを「設定する」を選択します。
6. 「更新」ボタンをクリックします。

※ バックアップの「ユーザー名」「パスワード」は、YFS Controller Proのユーザー名とパスワードになります。

※画面はN-RAID 4000Tシリーズのもので。



バックアップ先 NAS の設定

「バックアップ元NAS/サーバー」の設定が終わったら、「バックアップ先」の設定を行います。



Step1 モジュールを確認する

ログイン

1. WebブラウザでNASのIPアドレスをアドレスバーに入力します。
2. パスワードを入力してadmin画面にログインします。

※ ユーザー名/パスワードは半角英数で入力してください。
※ パスワードの初期値は「admin」です。

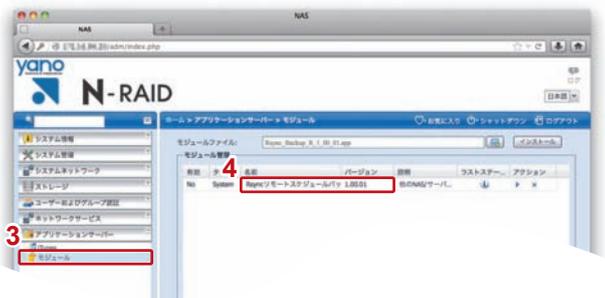
ホーム

3. 「アプリケーションサーバー」から「モジュール」をクリックします。

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

4. 右側の【モジュール管理】に、「Rsyncリモートスケジュールバックアップモジュール」のバージョン「1.00.01」が表示されている事を確認します。
表示されている場合は、「Step4:モジュールを有効化する(本紙P.7)」へ、表示されていない場合は、「Step2:モジュールをダウンロードする」へお進みください。

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのもので。



Step2 モジュールを入手する

製品添付のCD>「Module」>「Rsync_Remote_Backup_1.00.01」フォルダーの中に「Rsync_Backup_R_1.00.01.app」が入っている事を確認します。もしくは、弊社Webサイトよりダウンロードしてください。

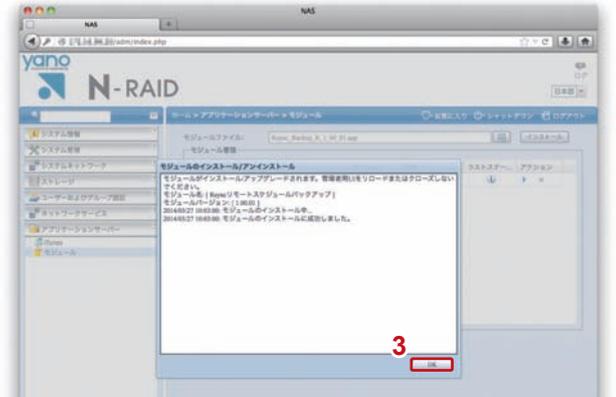
■ http://www.yano-sl.co.jp/download/soft/nas_rsync_remote_schedule_backup_100.html

※ ダウンロード方法の詳細は弊社カスタマーサポートまでお問い合わせください。

Step3 モジュールをインストールする

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

1. ボタンをクリックし、モジュールファイル (Rsync_Backup_R_1.00.01.app) を選択します。
※ 既に旧バージョンのモジュールをご使用の場合、新バージョンに書きかれます。その際、既存のタスク情報は保持されます。(「ログ保存」にチェックは入っておりません。必要に応じて編集してください。) その際にモジュールは無効化されるため、「Step4:モジュールを有効化する」へお進みください。
2. 「インストール」ボタンをクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。
3. インストールが開始されます。
成功メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



Step4 モジュールを有効化する

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

1. 右側の【モジュール管理】の中に表示されている「Rsyncリモートスケジュールバックアップモジュール」のアクションボタン「▶」をクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「Yes」をクリックします。



バックアップの手順

バックアップ元のNASの共有フォルダーと中身のデータをバックアップ先のNASの共有フォルダーへバックアップします。

※ Windows PCの場合、IEのバージョンによって画面のレイアウトが崩れることがあります。その際は、IEの互換表示(アドレス入力欄の中にあるファイルが破れたアイコン)をクリックして有効にしてください。

Step1 バックアップを設定する

ホーム

1. NASの管理画面「アプリケーションサーバー」から「モジュール」をクリックします。

ホーム>アプリケーションサーバー>モジュール

2. 「Rsyncリモートスケジュールバックアップモジュール」をクリックします。

(タスクの作成や編集を行うための新しいウィンドウが開きます。)

設定ウィンドウ

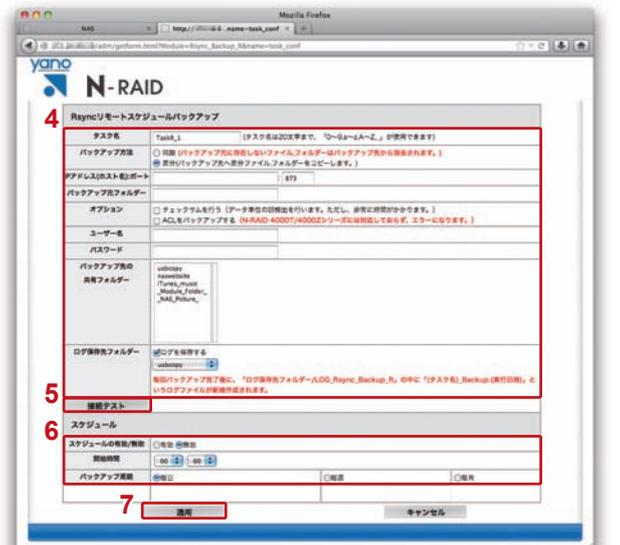
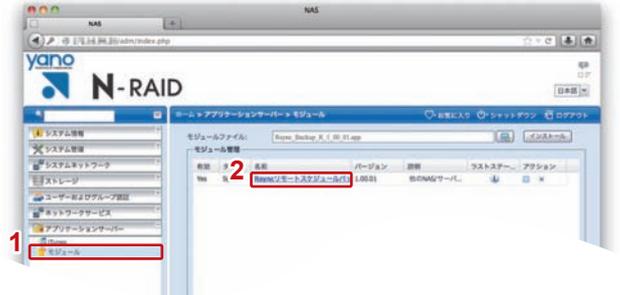
3. 「追加」をクリックします。

4. 以下の内容をそれぞれの項目に入力します。

タスク名	バックアップ管理用の名称を入力します。
バックアップ方法	完全一致バックアップの場合は【同期】、増分バックアップの場合は【差分】を選択します。 ※【同期】を選択した場合、バックアップ元に存在しないファイル、フォルダーはバックアップ先から消去されますので、ご注意ください。
IPアドレス(ホスト名):ポート	バックアップ元のNAS/サーバーのIPアドレスを入力(ポートの数値を変更する必要はありません)。
バックアップ元フォルダー	バックアップ元の共有フォルダー名を入力します。
オプション	データ単位の誤検出を行う場合は「チェックサムを行う」にチェックをつけてください。ただし、非常に時間がかかります。 バックアップ元共有フォルダーのACL情報をバックアップ先に反映する場合は、「ACLをバックアップする」にチェックをつけてください。 ※ N-RAID 4000T/4000Zシリーズには対応しておらず、チェックすると不明なエラーが発生します。
ユーザー名	N-RAID 5500Kシリーズ/Thecus NAS(ヤノモデル)はバックアップ元のRsync設定、N-RAID 4000T/4000ZシリーズはYFS Controller Proのログイン画面で入力したユーザー名とパスワードを入力します。
パスワード	

※次頁につづく

※画面はN-RAID 5500Kシリーズのものであります。



※前頁のつづき

バックアップ先の共有フォルダー バックアップ先の共有フォルダーを選択します。

※ パブリックの設定およびACL情報については、バックアップ元と同じ設定を推奨します。異なる設定にした場合、バックアップ後にパブリック、ACL情報の再設定が必要になる場合があります。

※ パブリックが「No」かつACL情報が未設定の場合、共有フォルダーにアクセスできません。必ずパブリックを「Yes」にするか、ACL情報を設定してください。

ホーム>ストレージ>共有フォルダ

- a. 該当する共有フォルダーを選択し「ACL」をクリックします。
- b. 「ユーザーグループ名」一覧から「users」を「書き込み可能」欄にドラッグ&ドロップします。
- c. 「適用」ボタンをクリックします。

ログ保存先フォルダー バックアップログを保管する共有フォルダーを選択します。

※ 問題が発生した時に解決の手がかりとなる場合があるので、専用の共有フォルダー作成、およびログの保存を推奨します。

5. 「接続テスト」をクリックします。

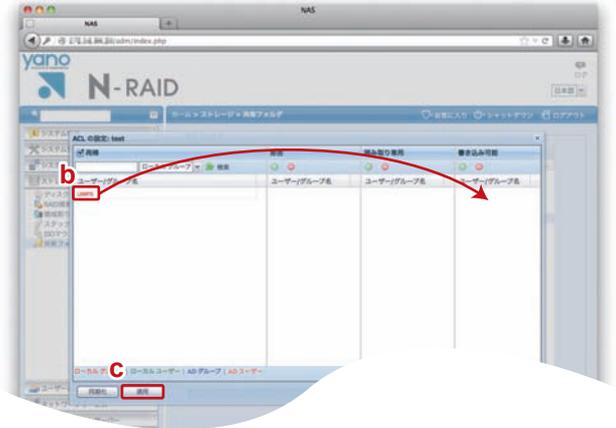
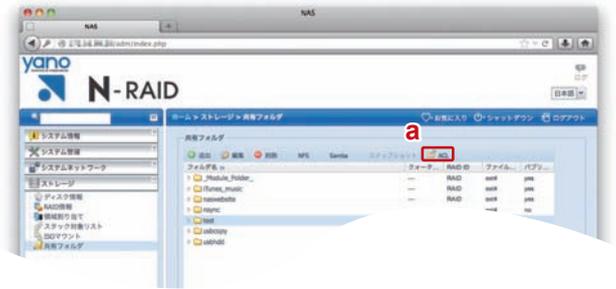
『(IPアドレス)への接続テストに成功しました』と表示されたら、問題なく接続されています。

6. 自動設定を行う際は以下の項目を入力します。

スケジュールの有効/無効	「有効」を選択します。
開始時間	開始時刻を設定します。(24時間表示)
バックアップ周期	バックアップ間隔を【毎日】と【毎週】と【毎月】から選択します。

7. すべての項目を入力後、「適用」をクリックします。

確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。



Step2 バックアップを実行する

設定ウィンドウ

1. アクションボタン「▶」をクリックすると直ちにバックアップが実行されます。バックアップを途中で停止する場合は「□」をクリックしてください。バックアップの進捗状況および結果については「最新ステータス」で確認できます。

※ バックアップ中は、NASの電源をOFFにしないでください。また、NASからネットワークケーブルを取り外さないでください。

※ Step1でスケジュールを有効に設定している場合は自動的にバックアップが開始されますので、手動で実行する必要はありません。

※ バックアップ実行中は本体に負荷がかかっているため、クライアントからのアクセス速度が低下します。業務時間外(深夜~早朝等)に実行すると、スムーズに運用できます。

※ タスクを複数作成して同時に実行できますが、バックアップ時間が増えると共に全体のパフォーマンスが低下します。できる限り作業時間をずらしてそれぞれのタスクを実行してください。



Step3 バックアップの完了を確認する

設定ウインドウ

1. バックアップが完了すると「最終ステータス」欄に「バックアップに成功しました。」と表示されます。



バックアップしたデータを確認する

クライアントPCからバックアップ先のNAS(サーバー)にアクセスして、共有フォルダーにバックアップされたデータを確認します。

1. クライアントPCからバックアップ先のNASの共有フォルダーへ接続します。

※ NAS(サーバー)への接続方法については各製品マニュアルを参照してください。

※ バックアップ先の共有フォルダーに接続できない場合は以下の内容を確認してください。

- バックアップを行う前にバックアップ先の共有フォルダーのパブリックおよびACL情報を設定している。(本紙P.9「バックアップ先の共有フォルダー」参照)
- バックアップ元からバックアップ先へユーザー/グループ情報ファイルを移行後、パスワードを再設定している。
- ログインするユーザー名/パスワードが正しい。

2. マウントした共有フォルダーの中身を開き、ファイルやフォルダーがバックアップされていることを確認します。

タスクを編集する

スケジュールの有効/無効を切り替えるなど、タスクの設定項目を編集します。

設定ウインドウ

1. 編集するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「編集」をクリックします。

3. タスクの詳細画面が表示されるので、内容を変更して「適用」をクリックします。
確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。

※ 「タスク名」の項目は編集できません。

4. タスクの変更内容が反映されます。



タスクを削除する

必要なくなったタスクや、誤って作成したタスクを削除します。

設定ウインドウ

1. 削除するタスクのチェックボックスにチェックをします。
2. 「削除」をクリックします。

3. 確認メッセージが表示されるので、「OK」をクリックします。
4. タスクが削除されます。



注意事項

- バックアップ方法を「同期」にして実行した場合、不要データを消去する時間が60分を超えるとタイムアウトエラーで終了します。(タイムアウトの際は、最新ステータス欄に「ターゲットとの接続に失敗しました。」と表示されます)
- バックアップ元となる共有フォルダ内のデータをリネーム(名前変更)した場合、バックアップ実行時に、バックアップ先のリネーム前のデータが一旦削除されてから新規にリネーム後のデータが作成されます。そのため、処理に非常に多くの時間がかかりますのでご注意ください。
- バックアップ中に次回のスケジュール時刻になった場合、次回のスケジュールはスキップされ、実行中のバックアップが優先されます。
- 本モジュールとレプリケーションモジュール(常時監視/バックアップ)やUSB/eSATAスケジュールバックアップモジュールを同時に使用した場合、双方のモジュールの動作に負荷がかかり、速度低下やタイムアウトエラーなどが発生する可能性があります。用途に応じての使い分けを推奨します。